

用水路にはえた草で発見したもので、羽化殻の位置はミルヤンマと同じである。成虫は仁川に多い。

コヤマトンボ *Macromia amphigena amphigena* SELYS

30 VII 1980 羽化殻 12

19 VII 1982 羽化殻 6

橋の天井面など暗い所で、羽化殻が見られる。普通に見られる。

オオシオカラトンボ *Orthetrum triangulare melania* SELYS

6 VII 1982 羽化殻 2

12 VII 1982 羽化殻 12

19 VII 1982 羽化殻 6

本種は流水、止水共に生息しており、羽化殻は水面上 20 cm~50 cm位の所に最も多く、当地においては最も多いトンボである。

参 考 文 献

- 1) 石田昇三(1969) 原色日本昆虫生態図鑑Ⅱトンボ編 保育社
- 2) 松本健嗣(1982) 神戸市周辺の蜻蛉目、きべりはむし(第10巻第2号): 2-8.

西宮市内におけるヒメコブヤハズ カミキリの採集記録

新 家 勝

県下におけるヒメコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber gibber* Batesの分布については本誌第9巻第2号に紹介されているが、採集記録は意外に少ないようである。少し古い記録であるが、西宮市内における筆者の採集例を報告させていただく。

IX. 23. 1974 西宮市鷺林寺、標本は筆者保管